

和歌山大学グランドデザイン 2040

令和元年7月24日役員会決定

【教育方針】

社会、産業の形態は日々変化し、複合化が進んでいる。解決しなければならない社会課題も複雑化・複合化し、複数の異なる専門領域にわたっている。一方、本邦は人口減少期に入り、社会において個々人が果たす役割は多元化・複雑化しており、1つの専門のみを深めることでは、現代の社会課題を解決することは困難になっている。和歌山大学は、複雑化する社会課題を解決できる人材を、大学内外の連携により複合的に学ぶ教育システム（オープンエデュケーション）により育成することを教育の主軸におく。このために、長期的に以下の施策を検討実施する。

1. オープンエデュケーションを教育の中核に置き、学際的・学理融合的な教育を進める。
2. 学部・研究科連携を進め、異分野に属する教員の連携・相互作用を高める。
3. 社会との連携を強め、大学生が社会人とともに学ぶシナジーを生み出す教育を進める。
4. 教養改革を推進し、広く学ぶことができる教育体制を構築する。
5. 文理融合型ダブルメジャー教育の導入を検討する。

【施設整備方針】

上記の教育課題を実現するためのプラットフォームとしての施設整備の方針を以下のように定める。

1. 施設整備は全学的課題とし、学長のイニシアティブの下で検討を行う。
2. オープンエデュケーションを実施する場を設ける。
 - 1) 学部間・研究科間が連携した教育を実施できる場の確保
 - 2) 大学生と社会人がともに学び、シナジーを生み出すことのできるアクティブラーニングに重点をおいた場の確保
 - 3) 専門教育の場を適切に確保
3. オープンエデュケーション実施に関する有効性を整備優先度に反映する。

【計画実施状況】

1. 東3号館の改修を上記方針に基づいて計画し、施設整備を実施している。
2. 西3号館の改修を上記方針に基づいて計画し、詳細を検討中

複雑化する社会課題を解決する人材の育成を実現するための施設整備

背景・課題

複雑化する現代社会の課題

- ・グローバル化に埋没する地域を輝かせる再生策
- ・温暖化などのグローバルな課題の解決
- ・人口減少社会における介護、教育、産業の担い手の育成
- ・新しい技術（AI, ICT）と人の関わり方

社会が求める大学のあり方

- ・学際的・学理融合的な課題解決人材の養成
- ・多様な教員からなるチームによる価値創造
- ・オープンイノベーションへの対応
- ・リカレントを含めた多様な学生の受け入れ

複雑化する課題解決人材の養成へ向けた**オープンエデュケーション**の実現

現状

❖ 部局毎の課題への対応

- ・平成24年 教養教育強化のため「教養の森」センターを設置
- ・平成27年 システム工学部1学科制
- ・平成28年 経済学部、観光学部1学科制
- ・平成28年 教職大学院設置
- ・平成29年 教養改革提言

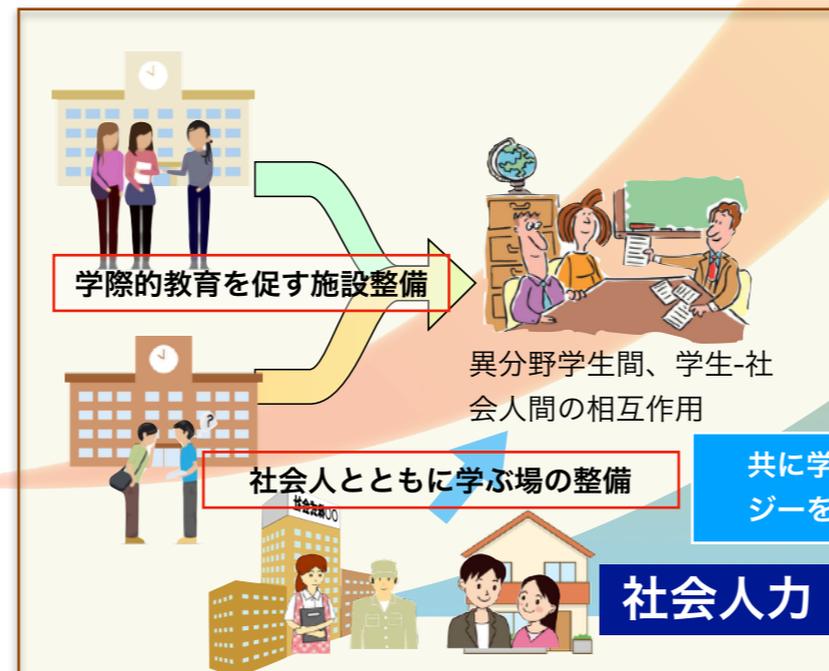
❖ 課題

- ・部局毎の教育プログラム
- ・部局ごとの教育ミッション
- ・部局毎の施設整備が部局間連携を阻害
乏しい部局間の連携 → 限られた専門性



多様で柔軟な教育研究を実現する施設整備

- ❖ 複合的な学びを主体とする社会問題解決人材の育成を和歌山大学の育成する人材像に設定
- ❖ オープンエデュケーションの実現
 - ▶ 学際的・学理融合を進めるプラットフォームの整備
 - ▶ 学長のイニシアティブに基づく、文理融合、分野協働を促すスペースマネジメント
- ❖ 多様な学生を受け入れる「場」の整備
 - ▶ 異分野学生、学生と社会人が共に学ぶシナジーを産むプラットフォームとしての施設整備



「社会実装力」を有する人材

和歌山大学大学院を改革
未来社会創生（学）研究科（仮称）

変革力

広い知識に裏打ちされたしなやかな専門性

専門力

俯瞰力

専門教育

教養（基幹/実践）

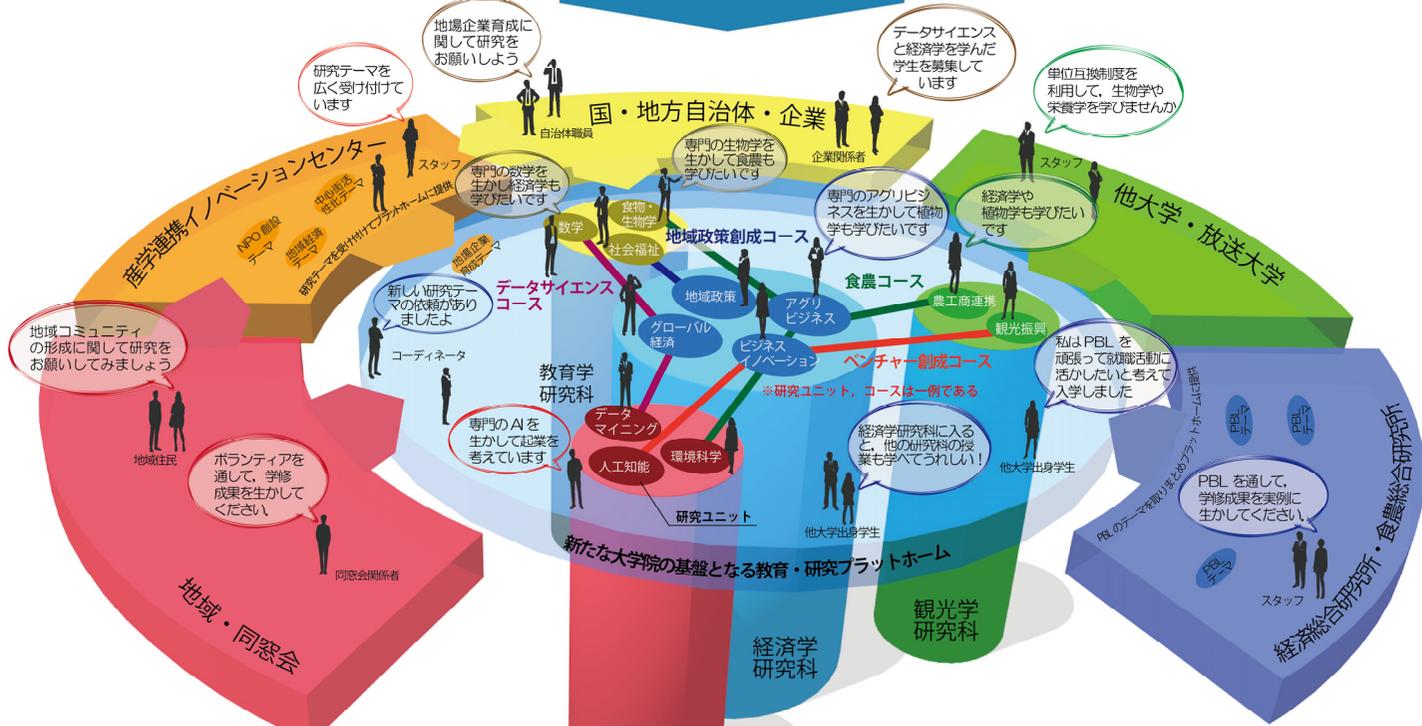
- 事業名 (栄谷) 西3号館改修
- 工事区分 改修 (機能改修)
- 構造・面積 R5 4,087㎡
- 事業費 490,440千円
- 建築年 1987年 (経年32年)
- 改修履歴 2012年 (外壁)

オープンエデュケーションを実現する場としての使命

- ① 全学共通スペースを設け、オープンエデュケーション構想に基づく新しい大学院教育を実現
- ② 経済学研究科を中心として、研究科間協働教育プラットフォームとして整備
 - ・ エネルギー経済学
 - ・ データ・インテリジェンス教育
- ③ 学部・研究科の専門教育の十分なスペースを確保

研究科概要 一各研究科の特徴ある研究分野をユニット化し、諸課題に対して有機的にそれらを結合して教育・研究を行う新しいプラットフォームの構築一

経済学研究科が主になり、教育学研究科、観光学研究科、システム工学研究科が協働した、オープンエデュケーションの視点を取り入れた新しい発想の研究科である。学生は提供される専門科目のうち、自らの進路に合わせて各研究科が提供する複数のユニット (研究領域) の科目を履修するとともに、実際の国内外や地域における諸問題をケーススタディにして、それをとりまく様々な情報の取得 (調査)、分析、政策立案、プレゼン方法を併せて学び、PBLを通して実践的に研究する。



- 育成する人材像**
- ・ 学部時代の専門を伸ばすとともに、PBLを通して実践的に、さらにもう一つの専門も学修した人材
 - ・ 情報科学・データサイエンスの理系マインドを学修した人材
 - ・ 将来の起業を目指して、経営や経理などを学修した人材

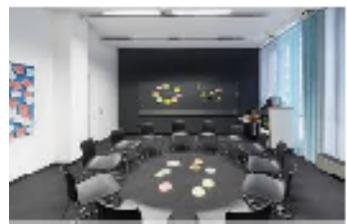
- カリキュラムの特徴**
- ・ 経済学研究科に入った学生は、他の研究科が提供する授業や演習を受講して修了単位とすることができる。【ダブルメジャー型学修の実現】
 - ・ 各プログラムが認める、放送大学や他大学にて開講されている科目を履修して修了単位とすることができる。【オープンエデュケーションの実現】



西3号館(旧経済学部本館棟)



【東3号館改修】
H30-31(Ⅰ期)示達
H31(Ⅱ期)示達
R2(Ⅲ期)※要求事項



プロジェクト演習
スペース(イメージ)



アクティブラーニング
スペース(イメージ)



データインテリジェンス
スペース(イメージ)